広報
さめがわ

昭和５１年
２月号
No. 266
編集兼発行
鮫川村総務課
塙町佐藤印刷所



さかずき挙げよう成人の春

今年成人のよろこびを迎えた若人は１５２名で、奇しくも一昨年の数と同じでした。

この日、男性は真新しいセビロに身を包み、女性は美しい和服姿が多く、続々会場の公民館に集まりました。しかも今年は定時開会で、石田村長から成人証書と記念品が贈られ、来賓の励ましの詞もあって、成人になったよろこびと責任をかみしめていました。

記念撮影の後の祝賀パーテーもにぎやかで、先輩の青年会員たちともたのしい交歓が続きました。

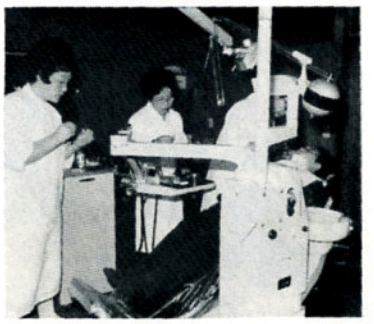
- ⊙ １日　交通事故ゼロ、歩行者優先の日
- ⊙ ５日　交通事故相談日（白河地方行政連絡室 TEL 白河(2)１５５０）
- ⊙ ２月２９日～３月１３日　春の全国火災予防運動
- ⊙ 第３日曜日は『家庭の日』

今月の人口

（２月１日 現在）

人口	5,957	(−37)
男	2,994	(−15)
女	2,963	(−22)
世帯	1,170	(0)





鮫川村は１月７日に初めての村営歯科診療所を開設しました。写真上は開所に当って激励のあいさつを述べる石田村長と管理者小島美枝子歯科医師、傅邱阿玉専任歯科医師、窪木征子看護婦、添田剛弘事務長。下は診療風景。

永い間不便を感じていただけに開設以来１日30名位の患者があり、大変忙しい毎日です。

おめでた

一二月（二六日以後）

西野内　石井亜矢子　父石井久夫
青生野　平久江正志父平久江七郎
木之根　山形　和幸　父山形　仁

一月

新　宿　斎須　亮　父斎須寛一
芦ノ草　円井こずい　父円井義生
蕨ノ草　鈴木　章弘　父鈴木和則
菅　田　山口　委子　父山口房昭
内ケ龍　緑川きみ子　父緑川正美

おくやみ

一二月　年令　世帯主

官　沢　矢吹嘉右衛門91矢吹甫甫
岩野草　松崎岩太郎76　松崎清次
越　虫　岩永　季一49　岩永マチノ

一月

大石草　鈴木　末吉86　鈴木嘉上
草　木　芳賀　芳兼2　芳賀芳弥
広　畑　矢吹　スイ67　矢吹義照
大石草　鈴木　トリ90　鈴木長一
岫　長　北条　シモ81　北条正人
伏木田　水野　福馬76　水野成男
青生野　藤田千代子26　藤田信也
中　沢　生田目光次73　生田目富夫
戸　草　三瓶岩之助85　三瓶正司

おはなのうみ（10）

策定途上の第二期山村振興計画

村長　石田　卯子八

鮫川村は第一期の山村振興計画を昭和四五年度から四年間実施し計画に対して一一七・八％の実績をあげることができました。

しかし地域は広く、恵まれない立地条件は一朝一夕に解消できるものではなく、一方国内に怒涛の如く起った経済変動の波は、人口の過疎化と老令化を更に促進し、農外所得への依存度を高め、自立農家の数は減少の一途をたどらざるを得なかったのであります。

ここに第二期の山村振興計画を樹て、更に徹底した生産基盤の整備と、生活環境の近代化を進め、中核的産業人の育成に努めつつ、より豊かな近代農村の建設を図るべき根拠があるわけであります。

国は本県下において鮫川村を含む六ケ村を昭和五〇年度の計画樹立町村に指定し、それぞれの計画は既に県の段階で策定に入り、何れ内閣に提出され承認になるものと思います。

只今のところ固まりつつあるわが村の第二期振興計画は、先づ第一が交通施策であって、村道網の改善整備を更に進めることが生産及び生活活動を向上させる不可欠の要件であるとの考え方を採っております。

第二は産業の生産基盤施策で、農道、林道、作業道の整備を進め立ちおくれている圃場整備を重点的に推進することであります。

ただこの計画のみで全村にわたる圃場整備は時間的に、また事業費の面でも困難であるから、これは第二期の農業構造改善事業に委ねることを考えております。

林業の分野では高度集約林業団地の育成事業や、早期育成林造成などの計画があります。

第三は、産業経営近代化施策で水田作協業の水稲育苗や籾乾燥施設、トラクター、自脱コンバインなどを計画に入れてあります。

また、村が自ら簡易な作業道を開設できるようなトラクターショベル、その他の器材を設置する計画もあります。

第四の文教施策では小規模校の統合や、教員住宅の建設などが予定されております。

第五は、社会生活環境施策で第二期計画の重点がここにも置かれており、診療施設の拡充、保育所の新設、子供遊び場、青少年の家、消防施設の充実などのほか、目玉ともいうべき山村開発センターの建設があります。

山村開発センターは、村のこれからの総合的な開発振興の拠点となるべき施設で、中核産業人の育成の場であり、一般成人の研修教養の場であり、村民の総親和といこいの場であることをねらいとしております。

しかもこの施設は、館山を中心とする農村公園の構想の中に位置することを予定しており、二年継続の事業として今年から着工したい考えであります。

なお第六に国土保全施策、第七に観光施策があります。

これらの計画の確定までにはなお曲折が予想され、実施の段階に入れば更に多くの困難があることは予期しなければなりませんが、村人の英知と努力の結集によって、よりよき村民生活への向上のため、よりすぐれた明るく豊かな村の建設のため、皆様のご協力をおねがいするものであります。

知事は語る（その1）

村の総合施設「開発センター」完成は52年度

村民のナマの声を県政に反映させることを目標に、一二月一九日村公民館で「知事をかこむ県政懇談会」が開かれました。

当日は、村民と地元県議、県出先機関長など二〇〇名あまりが参会、石田村長の司会でなごやかなうちにも実のある懇談が進められました。そのあらましを紹介します。

（今号は、産業と教育関係について）

山村振興事業開発センター建設について

（質問者　字檜久保　森　芳子）

村民の親しみ合ういこいの場、後継者育成の場となる村の総合施設「山村開発センター」の建設は財政事情の容易でない時とは思いますが、五一年度から着工できるよう格別のご配慮をお願いします

◎知事答弁

鮫川村の第二期山振計画の中には、ご質問の開発センターが入っており、県としても村の計画に従い、これを実現できるよう、農林省と国土庁に強く要請しております。特別な事情がない限り五一年度から五二年度にかけ、山村開発センターが建設されるようになります。



1月6日酷寒の大気を突いて消防出初式を挙行。幹部団員の精鋭を検閲する石田村長。この日最低気温零下7度4分でした。



消防自動車をつらねて勇壮な分列行進に続いての市内パレード。村民の信頼感も一段と高まった感じ今年も村内に災厄無かれ。

阿武隈山系開発事業実施について

（質問者　字青生野　岡部　実）

① 当初の図上計画にとらわれず地元の意見を十分に取り入れて現地に即した計画にして実施して下さい。

② 直接参加者の収益向上にならない事業については、参加者の負担にならないようご配慮願います。

③ 国有林野の貸付料は、引上げないようご配慮下さい。

◎知事答弁

① ご意見のとおりと思います。計画を尊重することは当然ですが、実施段階では計画のときと違った点も出てくることは実態であると思われます。

工事を始める前に、関係技術者と、地元の方々が率直な意見を出し合い、仕事を進めることが最良でないかと思います。

② 草地造成等に関連する防災林などについては、事業施行上必要であり、大切なことですからやはり負担してもらわねばなりません。ただ少しでも国の助成を得て参加者の負担を少なくするよう県では指導しています。

③ 国有林の貸付料は近隣の土地の価格に基づいて定められるものですが、産業経営ができなくなるような価格では困るので、営林署にもできるだけ安くするよう県としても努力したい考えです。

社会教育主事の派遣について

（質問者　字大石草　鈴木嘉上）

生涯教育の必要性が盛んに叫ばれているこの際、村内七つの分館を中心にさらに社会教育の振興を図るため、県から社会教育主事のご派遣について、ご高配頂きたくお願いします。

◎知事答弁

社会教育の重要性については、お話しのとおりです。県でも社会教育には大きな力を注いでおります。

鮫川村では、社教主事の有資格者もでき、意欲的に社会教育の充実を図ろうと努めており、県としてもこのような町村には積極的に社会教育主事配置の方向で努力をして参りたい考えです。

しかし五一年度については、今のところ国の予算とも関係しており、必ず配置できることは約束できない状態です。もしも五一年度に配置できないときには、五二年度には必ず配置したい考えです。

県立東白川農商高校鮫川分校舎の改築について

（質問者　字草牛　斎藤　正光）

鮫川分校は、旧中学校の古校舎を使用しておりますが、戦後のバラック構造なので老朽化が甚だし

い有様です。
近い将来に全面改築をして下さるようお願いします。

◎知事答弁

県内の県立高校全校について、木造から鉄筋造りにしようという計画で県では進めております。

ご質問の鮫川分校の校舎は、まだ危険校舎になっていないので、県内の危険校舎に文部省で認定した学校から、建築を進めなければなりません。

将来建築されることは間違いないが、今すぐにはできない現状です。

（終）

国勢調査

村の人口減少率やや鈍る

昨年一〇月一日に行われた国勢調査の結果は、次表のとおりです

大正九年に第一回国勢調査が実施されてから五年ごと（昭和二〇年は終戦のため中止され二二年に実施された。）の世帯数、男女別人口等は表1のとおりで、昭和三〇年国調まで増加をつづけ、昭和三五年国調より減少し　四五年に一二・二%減少となり、過疎地域の指定を受けたが今回は一一%の減少で、過疎化の進行はやや鈍化の傾向です。

幼年人口が減少し　労働力人口が増加

昭和四五年の国勢調査と五〇年国勢調査の人口構成を較べると表2のとおりになります。

〇才～一九才　六五二人減　二〇才～二九才　一〇三人増　三〇才～四四才　三三八人減　四五才以上　一七三人増　総体では七〇四人の減少となりました。

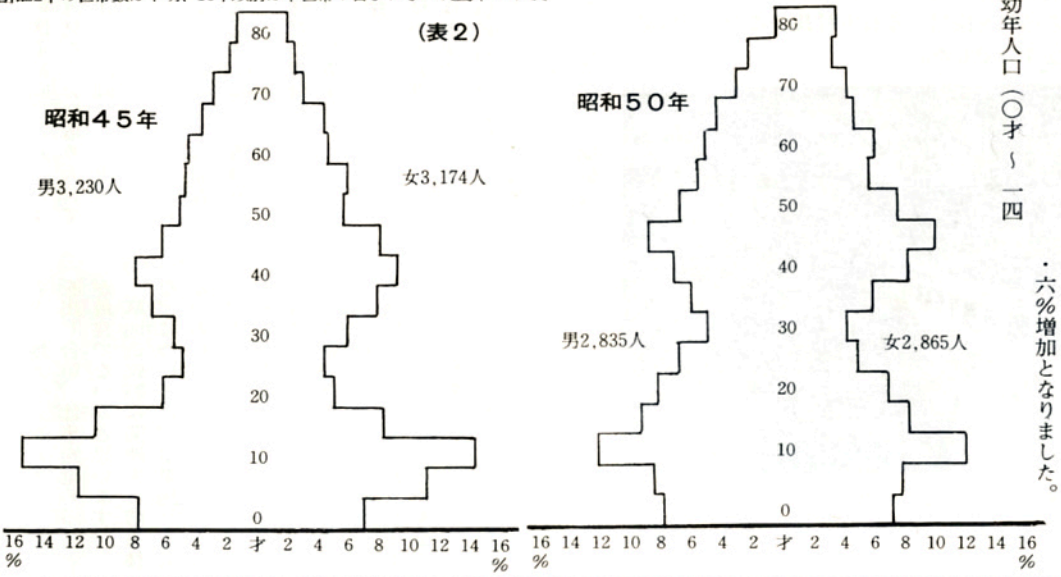
また、幼年人口（〇才～一四才）は、五・六%減少。労働力人口（一五才～六五才）は、四%増。老年人口（六五才以上）は一・六%増加となりました。

（表1）各国勢調査の世帯数および人口、1世帯当り人員、性比、人口密度

調査年	世帯数	人口 総数	男	女	総人口の前回国調との比較 増減数	増減率	総人口指数（大正9年=100）	1世帯当り人員	性比（女=100）	人口密度（1km²当り）
大正9年	1,082	5,919	2,897	3,022	—	—	100	5.47	95.9	45.1
14年	968	6,220	3,060	3,160	301	5.1	105.1	6.43	96.8	47.4
昭和5年	1,028	6,312	3,097	3,215	92	1.5	106.6	6.14	96.3	48.1
10年	1,062	6,537	3,198	3,339	225	3.6	110.4	6.16	95.8	49.8
15年	1,000	6,676	3,246	3,430	139	2.1	112.8	6.68	94.6	50.9
22年	—	7,676	3,692	3,984	1,000	11.5	129.7	—	92.7	58.5
25年	1,176	8,077	3,948	4,129	401	5.2	136.5	6.87	95.6	61.6
30年	1,210	8,256	4,019	4,237	179	2.2	139.5	6.82	94.9	62.9
35年	1,255	7,926	3,868	4,058	△330	△9.6	133.9	6.32	95.3	60.4
40年	1,249	7,291	3,572	3,719	△635	△9.2	123.2	5.84	96.0	55.6
45年	1,200	6,404	3,230	3,174	△887	△12.2	108.2	5.34	101.8	48.8
50年	1,147	5,700	2,835	2,865	△704	△11.0	96.3	4.97	99.0	43.4

注昭和22年の世帯数は不明、15年以前は準世帯が含まれない調査年がある。

（表2）



春の火災予防運動

2月29日～3月13日

春の季節風等による火災発生の多い時期を迎え、火災予防に対する理解を深めていただくため、二月二九日から三月一三日まで全国一せいに火災予防運動が行われます。

お互に十分注意し、火災の発生を防止しましょう。

○たばこの投げ捨て、寝たばこはやめよう。
○外出や寝る前に、火の元点検を励行しよう。
○屋外でのたき火、林野の火入れは必ず消防署に届けて下さい。

白河消防署鮫川出張所

鮫川小学校に雑巾を寄附

赤坂中野長生会（会長小松幸一さん）からたくさんの雑巾が寄贈になりました。子どもたちは自分のおぢいさん、おばあさんの作ったもので掃除ができると大喜びでおります。児童、職員一同感謝しております。

鮫川小学校

！飲酒運転追放！
三ない運動を実践しよう
1飲んだら乗らない
2乗るなら飲まない
3乗るなら飲ませない